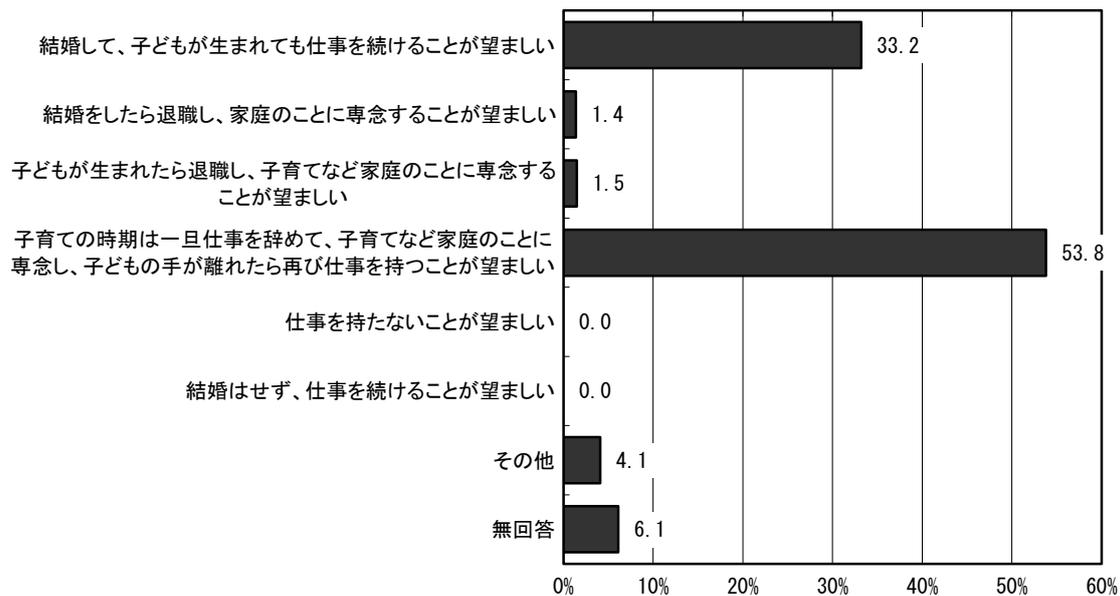


5 女性の就労について

問7 女性が仕事をもつことについてどれが望ましいと思いますか？ (SA)

「子育ての時期は一旦仕事を辞めて、子育てなど家庭のことに専念し、子どもの手が離れたら再び仕事を持つことが望ましい」が 53.8%で最も高くなっています。次いで「結婚して、子どもが生まれても仕事を続けることが望ましい」が 33.2%で続いています。

(SA) N=591



<「問1-1 性別」とのクロス集計>

“女性”は「結婚して、子どもが生まれても仕事を続けることが望ましい」の割合が“男性”と比べて若干高くなっています。

	合計	結婚して、子どもが生まれても仕事を続けることが望ましい	結婚したら退職し、家庭のことに専念することが望ましい	子どもが生まれたら退職し、子育てなど家庭のことに専念することが望ましい	子育ての時期は一旦仕事を辞めて、子育てなど家庭のことに専念し、子どもの手が離れたら再び仕事を持つことが望ましい	仕事を持たないことが望ましい	結婚はせず、仕事を続けることが望ましい	その他	無回答
上段:度数	224	82	4	1	117	-	-	11	9
下段:%	100.0	36.6	1.8	0.4	52.2	-	-	4.9	4.0
女性	138	45	1	6	70	-	-	7	9
男性	100.0	32.6	0.7	4.3	50.7	-	-	5.1	6.5

【他調査との比較】

H23年調査と比べて「結婚して、子どもが生まれても仕事を続けることが望ましい」の割合が高くなっています。

（％）	今回調査(H28年)	H23年調査
	N=591	N=627
結婚して、子どもが生まれても仕事を続けることが望ましい	33.2	26.6
結婚したら退職し、家庭のことに専念することが望ましい	1.4	1.9
子どもが生まれたら退職し、子育てなど家庭のことに専念することが望ましい	1.5	3.5
子育ての時期は一旦仕事を辞めて、子育てなど家庭のことに専念し、子どもの手が離れたら再び仕事を持つことが望ましい	53.8	54.9
仕事を持たないことが望ましい	0.0	0.3
結婚はせず、仕事を続けることが望ましい	0.0	0.2
その他	4.1	4.6
無回答	6.1	8.0

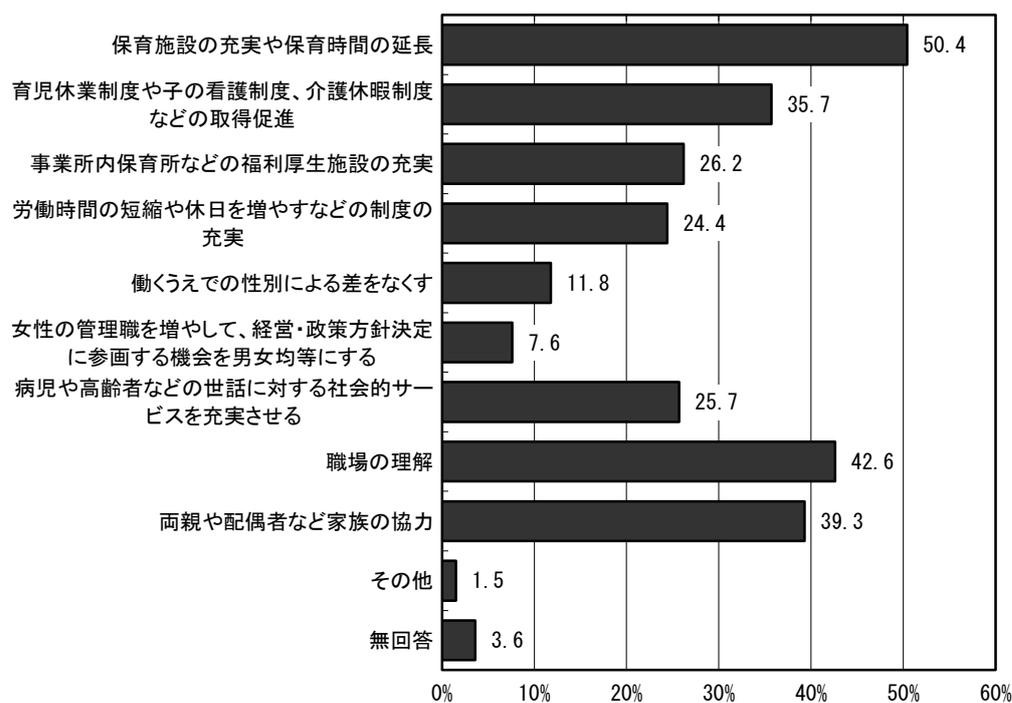
【主なその他回答】

内容	類似回答数
どれが望ましいか一つに決めず各人が自由に選べるようにすべき	13
その時の家庭や仕事など本人の状況にあわせればいい	5
ワーク・ライフ・バランスを推進して十分な育休後、万全な受け入れ体制で職場復帰ができることが望ましい	2
各人、それぞれ考えがあり、どれと決めかねますが働きたいと思った時働ける環境が整っていることが大事だと思う	2
結婚したり子どもができたりして女性が仕事を辞めるべきではないと思うが、子どもの為や両立のことを考えるとどちらかが家庭優先になるべきだと思う	2
子育ての時期は子どもに負担がかからない程度の時間で仕事ができることが望ましい	1
上に書いてある様には行かない。私は子どもが病気でその後働くということは無理になった	1
男性(主人)がしっかり生活費を稼いでくれたらいいと思う	1

問8 女性が働きつづけるために必要なことは何だと思いますか？(MA)

「保育施設の充実や保育時間の延長」が50.4%で最も高くなっています。次いで「職場の理解」が42.6%、「両親や配偶者など家族の協力」が39.3%、「育児休業制度や子の看護制度、介護休暇制度などの取得促進」が35.7%で続いています。

(MA) N=591



<「問1-1 性別」とのクロス集計>

“女性”では「育児休業制度や子の看護制度、介護休暇制度などの取得促進」、「労働時間の短縮や休日を増やすなどの制度の充実」、「病児や高齢者などの世話に対する社会的サービスを充実させる」、「職場の理解」の割合が“男性”と比べて高くなっています。

上段:度数 下段:%	合計	保育施設の充実や保育時間の延長	育児休業制度や子の看護制度、介護休暇制度などの取得促進	事業所内保育所などの福利厚生施設の充実	労働時間の短縮や休日を増やすなどの制度の充実	働くうえでの性別による差をなくす	女性の管理職を増やして、経営・政策方針決定に参画する機会を男女均等に
女性	224 100.0	113 50.4	93 41.5	54 24.1	71 31.7	20 8.9	9 4.0
男性	138 100.0	75 54.3	40 29.0	42 30.4	27 19.6	18 13.0	14 10.1

上段:度数 下段:%	合計	病児や高齢者などの世話に対する社会的サービスを充実させる	職場の理解	両親や配偶者など家族の協力	その他	無回答
女性	224 100.0	56 25.0	111 49.6	83 37.1	2 0.9	4 1.8
男性	138 100.0	23 16.7	57 41.3	51 37.0	4 2.9	6 4.3

【他調査との比較】

H23年調査と比べて概ねすべての項目の割合が高くなっています。

(%)	今回調査(H28年)	H23年調査	H18年調査
	N=591	N=627	N=521
保育施設の充実や保育時間の延長	50.4	33.3	44.9
育児休業制度や子の看護制度、介護休暇制度などの取得促進	35.7	18.7	43.6
事業所内保育所などの福利厚生施設の充実	26.2	19.1	10.7
労働時間の短縮や休日を増やすなどの制度の充実	24.4	13.2	18.6
働くうえでの性別による差をなくす	11.8	6.9	8.4
女性の管理職を増やして、経営・政策方針決定に参画する機会を男女均等にする	7.6	4.6	6.5
病児や高齢者などの世話に対する社会的サービスを充実させる	25.7	19.9	29.8
職場の理解	42.6	29.7	
両親や配偶者など家族の協力	39.3	27.0	
その他	1.5	1.9	3.3
無回答	3.6	5.1	8.1

【主なその他回答】

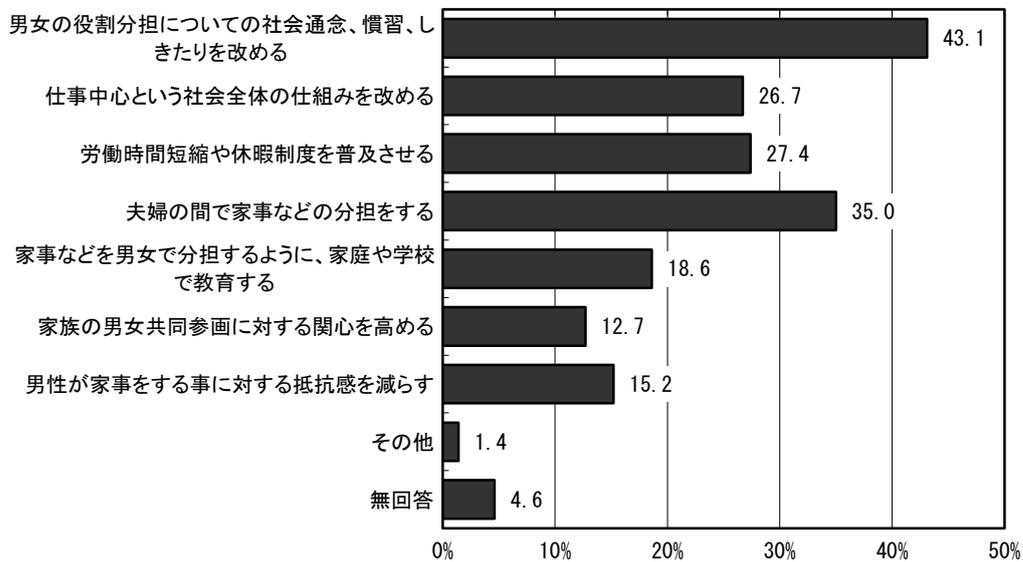
内容	類似回答数
女性が働き続ける必要がない	2
現状の社会常識では不可能。家庭生活を支える人が居ない	1
子どもができると嫌がられる社会をなくしてほしい	1
女性の意識改革	1
全部	1
賃金を上げる	1
保育士の待遇向上による保育環境の向上。子どもをゆとりを持ってみてもらえる環境を作してほしい	1
問7の通り。働くことより大事な仕事がある	1

6 男性の家事・育児への参加について

問9 男性が家事、子育てや教育、介護に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか？(MA)

「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」が 43.1%で最も高くなっています。次いで「夫婦の間で家事などの分担をする」が 35.0%、「労働時間短縮や休暇制度を普及させる」が 27.4%、「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」が 26.7%で続いています。

(MA) N=591



【他調査との比較】

H23年調査と比べて「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」の割合が高く、「家事などを男女で分担するように、家庭や学校で教育する」、「男性が家事をする事に対する抵抗感を減らす」の割合が低くなっています。

（％）	今回調査(H28年)	H23年調査
	N=591	N=627
男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める	43.1	25.8
仕事中心という社会全体の仕組みを改める	26.7	25.4
労働時間短縮や休暇制度を普及させる	27.4	24.7
夫婦の間で家事などの分担をする	35.0	34.1
家事などを男女で分担するように、家庭や学校で教育する	18.6	23.4
家族の男女共同参画に対する関心を高める	12.7	12.9
男性が家事をする事に対する抵抗感を減らす	15.2	23.3
その他	1.4	2.9
無回答	4.6	5.3

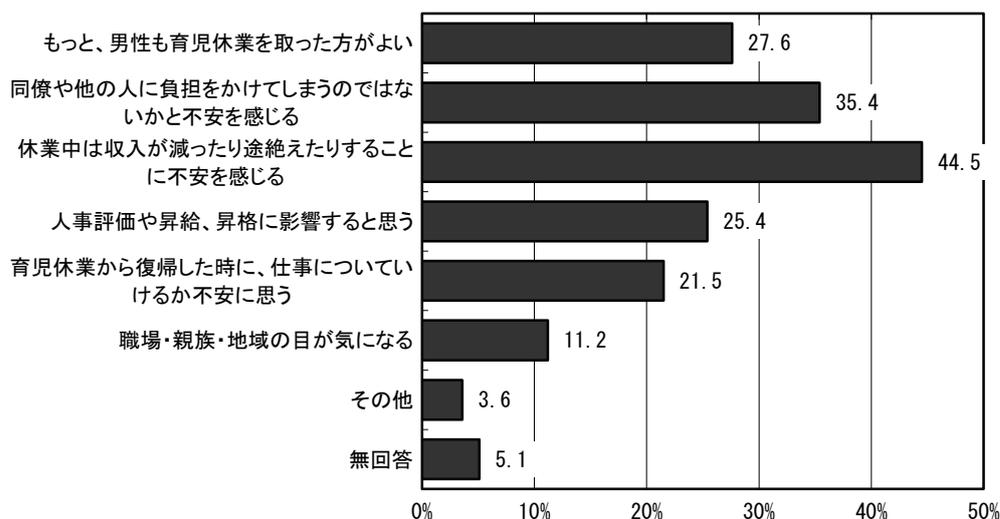
【主なその他回答】

内容	類似回答数
それぞれの家庭でお互い話し合うのが一番。こうしてほしいという思いを出して話し合う。男性に協力してもらおう。関心をもってもらおう	1
各家庭の問題	1
金銭面で充実させてほしい	1
全く平等な業務内容、賃金、全ての業種、会社で実施	1
全項目必要だと思う	1
男の子は、仕事してその上子育てをして休まることがない気がする。今の女の子のずるさが目立つ(男の子を持つ親)	1
男女の性差の教育を充実させる	1
男性の優しい言葉遣い	1
賃金が上がれば生活に余裕ができ男性も参加できる	1

問10 男性が育児休業を取ることにどのように感じられますか？ (MA)

「休業中は収入が減ったり途絶えたりすることに不安を感じる」が44.5%で最も高くなっています。次いで「同僚や他の人に負担をかけてしまうのではないかと不安を感じる」が35.4%、「もっと、男性も育児休業を取った方がよい」が27.6%で続いています。

(MA) N=591



<「問1-1 性別」とのクロス集計>

“男性”では「同僚や他の人に負担をかけてしまうのではないかと不安を感じる」の割合が高くなっています。

	合計	もっと、男性も育児休業を取った方がよい	同僚や他の人に負担をかけてしまうのではないかと不安を感じる	休業中は収入が減ったり途絶えたりすることに不安を感じる	人事評価や昇給、昇格に影響すると思う	育児休業から復帰した時に、仕事についていけるか不安に思う	職場・親族・地域の目が気になる	その他	無回答
女性	224 100.0	70 31.3	69 30.8	101 45.1	59 26.3	51 22.8	19 8.5	7 3.1	10 4.5
男性	138 100.0	32 23.2	65 47.1	61 44.2	35 25.4	25 18.1	14 10.1	3 2.2	6 4.3

【他調査との比較】

H23 年調査と比べて「休業中は収入が減ったり途絶えたりすることに不安を感じる」、
「人事評価や昇給、昇格に影響すると思う」の割合が高くなっています。

（％）	今回調査(H28年)	H23年調査
	N=591	N=627
もっと、男性も育児休業を取った方がよい	27.6	25.8
同僚や他の人に負担をかけてしまうのではないかと不安を感じる	35.4	36.5
休業中は収入が減ったり途絶えたりすることに不安を感じる	44.5	34.9
人事評価や昇給、昇格に影響すると思う	25.4	20.9
育児休業から復帰した時に、仕事についていけるか不安に思う	21.5	22.5
職場・親族・地域の目が気になる 【H28年新規回答項目】	11.2	
その他	3.6	7.7
無回答	5.1	6.4

【主なその他回答】

内容	類似回答数
必要に応じて	3
その人の考え次第、共働きの場合は取ったほうが良い場合もある。両親の協力	1
育児についての情報を増やす	1
育児休業という長期の休業をとらないまでも出来ることはあるように思う。定時退庁し、家族でそろって食事をとり、ふろに入り川の字になって眠るだけでもいい。育休以前の問題のように思う	1
共働きの場合分担できれば	1
現行制度をもっと活用する	1
古い考え方もかもしれませんが男性は仕事をしている姿が最も素晴らしい。仕事していても休日は労働基準法で定められているからその休日に育児参加、協力をすればいい。日本の経済が破綻するかもと心配	1
子どもにとってどうしたのがベストかによって決めるべきと思う	1
子どもは社会の宝物、ワークショップなど働き方を工夫し、育児休暇をとりやすい社会の仕組みを少しずつ変えていけたらいい	1
私の場合育児は母親の方が無理なくできるし、夫にまかせるのも心配だったので女性のほうが無理なく育休をきちんと取れば男性には必要ないのではないかと思う	1
自分達の子育ての時とあまりに時代が遠ざかっていて想像できない	1
小企業では取れない	1
職場で育児休暇を取れる雰囲気作りが大事。利益中心では難しい	1
人生の中の一時期愛情を注げるのではないか	1
男女の差が大きい。女が仕事をしていて夫が育児をしては生活できない	1
同僚からの誹謗中傷	1

内容	類似回答数
夫婦、職場で相談の上とれるなら取ったら良いと思う。話し合いをしっかりと理解を得る必要があると思う	1
保育園幼稚園に入園したら夫婦共に働くこと(祖父母協力)。保育園も幼稚園も夕方17時半から19時まで延長すること。先生の2交代制と増員	1

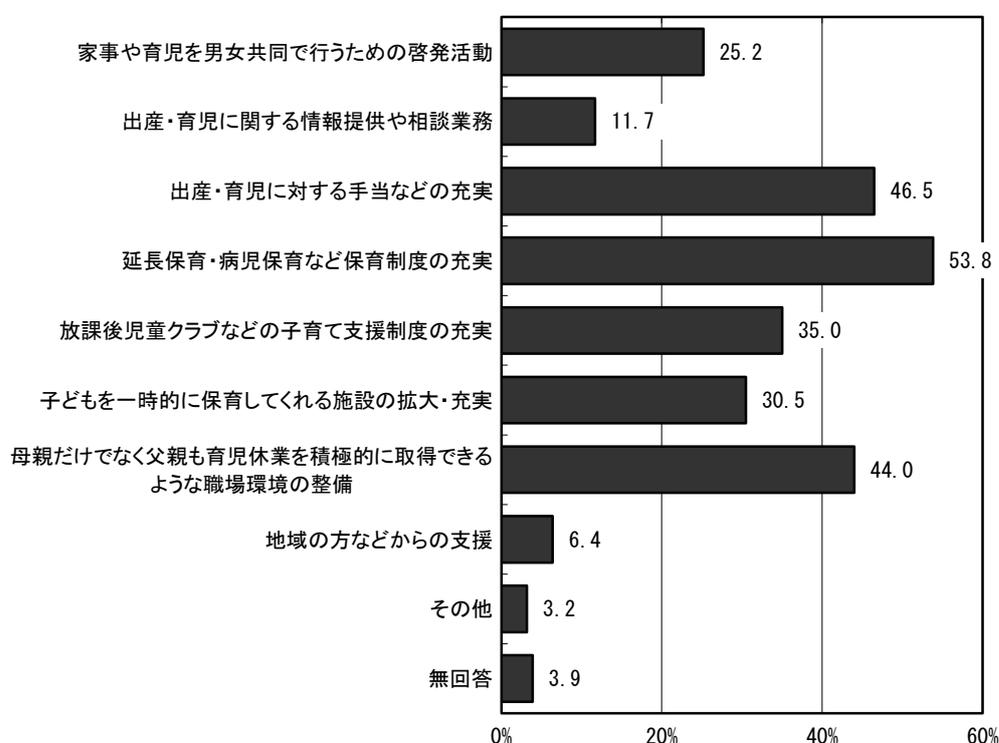
7 子育てについて

【H28 年調査新規設問】

問11 子どもを産み育てやすい環境づくりのためには、どのような事が必要だと思いますか？ (MA)

「延長保育・病児保育など保育制度の充実」が 53.8%で最も高くなっています。次いで「出産・育児に対する手当などの充実」が 46.5%、「母親だけでなく父親も育児休業を積極的に取得できるような職場環境の整備」が 44.0%で続いています。

(MA) N=591



【主なその他回答】

内容	類似回答数
一定以上の収入の確保	2
子育てを楽しむ＝考え方、余裕	2
若者の給料を上げて共働きをしないで子育てが出来ること	2
親、近所の人たちからの手助け	2
そもそも今の制度は結婚した人前提で成り立っていて、どうして結婚しないのか、結婚できないのかということが眼中になり、結婚して子どもを育てていく収入と環境がない人が多い	1
安らげる和やかな家庭環境だと思う	1
育児休暇2～3年にする。手当てを出す(休み中)	1
子育て環境に合う職に就く。就けるなら	1

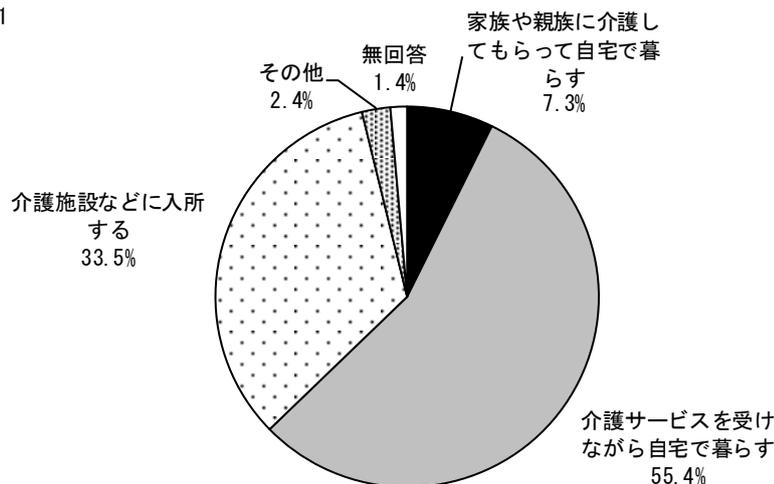
内容	類似回答数
子どもが高校を出るまでに(大学も含めて)お金がかかりすぎて経済的にとてもしんどかった。今は昔とちがいで、塾、携帯、パソコン等お金がかかることが多い。育児までではなく子どもが仕事をするまでの間の長い期間に何かしらの支援があれば。今はあるかもしれないが私のときはなかった	1
社会環境作り	1
充実、充実と書かれていますがその前に個人の親が家庭での人間形成をどのように考えているかが大切だと思う。お金の世の中というのは重々感じますが仕事をとるか家庭での生活を選ぶかだけのことだと私は思う	1
出産後は3年の育児休暇、子どもが病気になったら休みを取りやすい職場にする。最近女性の社会進出が増えているがそれと同時に子どもの虐待や閉じこもり、精神の弱い子ども、しつけができていない子どもが多く、増えている	1
職場の理解。妊婦時にマタハラにあった。復帰しても、子どもが熱が出たり病気になると早退したり休んだりするので心苦しい	1
親が責任を持って育てたらよい	1
他人が子どもをしかっても頭にこない親の心作り	1
保育料の補助(値下げ)	1
未就園児、赤ちゃんを連れて母親、父親が気軽に集える場の充実。そういう場所に気軽に相談できる専門家がいると良い。子育て支援センターを毎日開放してほしい。一箇所だけでなくたくさん作ってほしい	1

8 介護について

問12 あなたが、もし、援助や介護が必要になったとき、どうしたいと思いますか？ (SA)

「介護サービスを受けながら自宅で暮らす」が 55.4%、「介護施設などに入所する」が 33.5%、「家族や親族に介護してもらって自宅で暮らす」が 7.3%となっています。

(SA) N=591



【他調査との比較】

H23年調査と比べて「介護サービスを受けながら自宅で暮らす」、「介護施設などに入所する」の割合が高くなっています。

(%)	今回調査(H28年)	H23年調査
	N=591	N=627
家族や親族に介護してもらって自宅で暮らす	7.3	12.1
介護サービスを受けながら自宅で暮らす	55.4	50.7
介護施設などに入所する	33.5	28.7
その他	2.4	3.5
無回答	1.4	4.9

【主なその他回答】

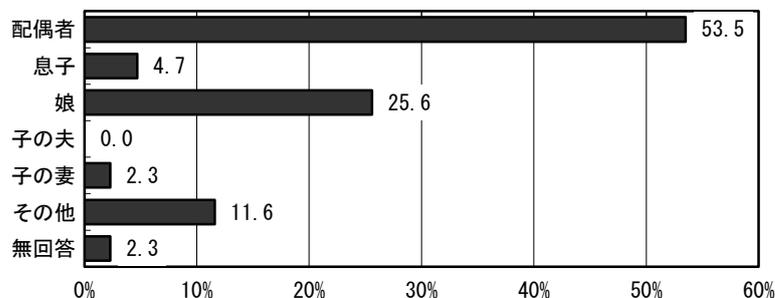
内容	類似回答数
国民年金だけなので施設等に入所することは出来ない	1
援助や介護費用等家族と費用の負担が少ない方を選択する	1
要支援Ⅰ、Ⅱくらいまでは介護サービスを受けながら、自宅で介護になったら施設に入所する	1

問12で「家族や親族に介護してもらって自宅で暮らす」と回答した方を対象とした設問

問13 あなたは、家族や親族のどなたに介護してもらいたいですか？ (SA)

「配偶者」が53.5%で最も高くなっています。次いで「娘」が25.6%が続いています。

(SA) N=43



<「問1-1 性別」とのクロス集計>

「男性」では「配偶者」の割合が「女性」での割合よりも高くなっています。

上段:度数 下段:%	合計	配偶者	息子	娘	子の夫	子の妻	その他	無回答
女性	9 100.0	4 44.4	-	2 22.2	-	1 11.1	2 22.2	-
男性	16 100.0	9 56.3	-	4 25.0	-	-	3 18.8	-

【他調査との比較】

過去調査と比べて「配偶者」の割合が低くなり、「娘」の割合が高くなっています。

(%)	今回調査(H28年)	H23年調査	H18年調査
	N=43	N=76	N=51
配偶者	53.5	65.8	78.4
息子	4.7	9.2	0.0
娘	25.6	10.5	17.6
子の夫 【H28年新規項目】	0.0		
子の妻	2.3	5.3	2.0
その他	11.6	7.9	2.0
無回答	2.3	1.3	0.0

※H23年調査、H18年調査で設定されていた回答項目「嫁（息子の妻）」の割合は、今回調査の「子の妻」として反映しています。

【主なその他回答】

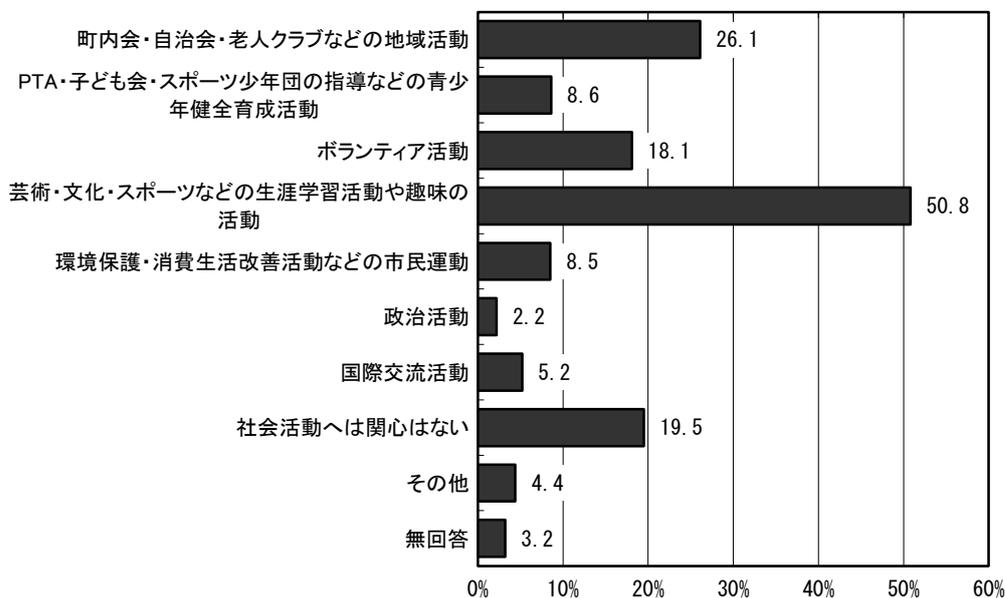
内容	類似回答数
専門職の人	1
実姉妹	1
結婚しなかった場合、解答欄の選択は難しい	1
わからない	1

9 社会参加について

問14 あなたが現在、関心のある活動は何ですか？ (MA)

「芸術・文化・スポーツなどの生涯学習活動や趣味の活動」が 50.8%で最も高くなっています。「町内会・自治会・老人クラブなどの地域活動」が 26.1%、「社会活動へは関心はない」が 19.5%、「ボランティア活動」が 18.1%で続いています。

(MA) N=591



【他調査との比較】

過去調査と比べて「町内会・自治会・老人クラブなどの地域活動」、「芸術・文化・スポーツなどの生涯学習活動や趣味の活動」の割合が高くなっています。

(%)	今回調査(H28年)	H23年調査	H18年調査
	N=591	N=627	N=521
町内会・自治会・老人クラブなどの地域活動	26.1	23.1	20.3
PTA・子ども会・スポーツ少年団の指導などの青少年健全育成活動	8.6	8.5	13.8
ボランティア活動	18.1	16.4	16.5
芸術・文化・スポーツなどの生涯学習活動や趣味の活動	50.8	40.8	39.3
環境保護・消費生活改善活動などの市民運動	8.5	8.0	11.9
政治活動	2.2	3.8	2.3
国際交流活動	5.2	1.9	4.4
社会活動へは関心はない	19.5	22.3	19.2
その他	4.4	4.8	5.8
無回答	3.2	5.9	7.7

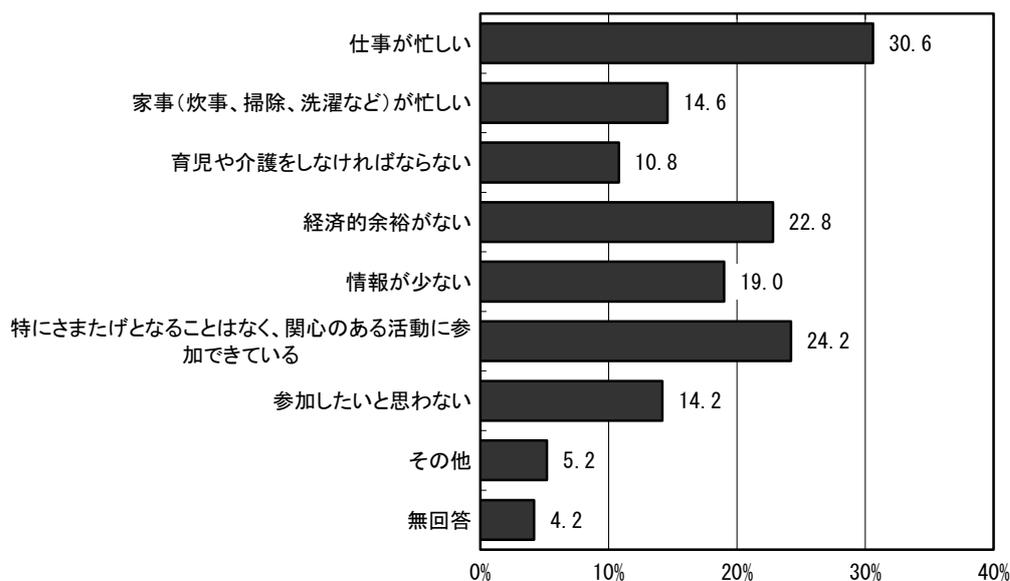
【主なその他回答】

内容	類似回答数
あまり興味がない	2
参加できない	2
時間に余裕がない	2
ゲーム	1
こけない体操、若返り会	1
資産運用	1
自宅周辺の清掃を常に心がけている	1
自分の生涯学習として踊りをしていますが主人がよく酒を飲むので気になり断酒会の家族会に入って月2回希望が丘に出席している	1
自分自身の身を守ることのほうが優先	1
親のいない子等(特に高卒以降)、将来市及び参画センターで住居等の確保指導	1
地域での老老共同生活	1
地域の青少年健全育成活動	1
独自の趣味	1
畑仕事	1

問15 あなたが、問14の活動に参加しようとするとき、さまたげとなることがありますか？ (MA)

「仕事が忙しい」が 30.6%で最も高くなっています。次いで「特にさまたげとなることなく、関心のある活動に参加できている」が 24.2%、「経済的余裕がない」が 22.8%で続いています。

(MA) N=591



<「問1-1 性別」とのクロス集計>

“女性”では「家事（炊事、掃除、洗濯など）が忙しい」の割合が“男性”と比べて高く、“男性”では「仕事が忙しい」の割合が“女性”と比べて高くなっています。

	合計	仕事が忙しい	家事(炊事、掃除、洗濯など)が忙しい	育児や介護をしなければならない	経済的余裕がない	情報が少ない	特にさまたげとなることなく、関心のある活動に参加できている	参加したいと思わない	その他	無回答
上段:度数	224	55	42	26	46	45	51	35	13	10
下段:%	100.0	24.6	18.8	11.6	20.5	20.1	22.8	15.6	5.8	4.5
女性	138	56	7	11	32	28	35	14	8	5
男性	100.0	40.6	5.1	8.0	23.2	20.3	25.4	10.1	5.8	3.6

<「問1-4 結婚」とのクロス集計>

“離婚”している人では「経済的余裕がない」の割合が他の結婚の状況と比べて高くなっています。

上段:度数 下段:%	合計	仕事が忙しい	家事(炊事、掃除、洗濯など)が忙しい	育児や介護をしなければならぬ	経済的余裕がない	情報が少ない	特に「さまたげとなる」とはなく、関心のある活動に参加できている	参加したいと思わない	その他	無回答
既婚(事実婚を含む)	422 100.0	138 32.7	66 15.6	58 13.7	87 20.6	80 19.0	112 26.5	51 12.1	21 5.0	16 3.8
離婚	35 100.0	9 25.7	7 20.0	2 5.7	16 45.7	3 8.6	3 8.6	7 20.0	1 2.9	2 5.7
死別	48 100.0	6 12.5	2 4.2	1 2.1	5 10.4	8 16.7	21 43.8	10 20.8	3 6.3	3 6.3
未婚	77 100.0	26 33.8	10 13.0	3 3.9	25 32.5	18 23.4	6 7.8	16 20.8	4 5.2	3 3.9

<「問1-4-2 就労状況」とのクロス集計>

“共働きである”人では「仕事が忙しい」の割合が他の就労状況と比べて高くなっています。

上段:度数 下段:%	合計	仕事が忙しい	家事(炊事、掃除、洗濯など)が忙しい	育児や介護をしなければならぬ	経済的余裕がない	情報が少ない	特に「さまたげとなる」とはなく、関心のある活動に参加できている	参加したいと思わない	その他	無回答
共働きである	215 100.0	109 50.7	40 18.6	30 14.0	49 22.8	37 17.2	33 15.3	26 12.1	8 3.7	4 1.9
一方が家事専念	117 100.0	22 18.8	18 15.4	17 14.5	19 16.2	25 21.4	39 33.3	11 9.4	5 4.3	5 4.3
ともに無職である	78 100.0	3 3.8	7 9.0	10 12.8	17 21.8	16 20.5	35 44.9	11 14.1	8 10.3	6 7.7

【他調査との比較】

過去調査と比べて「仕事が忙しい」、「家事（炊事、掃除、洗濯など）が忙しい」、「情報が少ない」の割合が微増しています。

（%）	今回調査(H28年)	H23年調査	H18年調査
	N=591	N=627	N=521
仕事が忙しい	30.6	25.0	24.4
家事(炊事、掃除、洗濯など)が忙しい	14.6	9.5	10.9
育児や介護をしなければならない	10.8	11.6	14.4
経済的余裕がない	22.8	24.3	23.4
情報が少ない	19.0	16.5	15.9
特にさまたげとなることはなく、関心のある活動に参加できている	24.2	23.6	23.6
参加したいと思わない	14.2	12.3	10.9
その他	5.2	6.0	5.6
無回答	4.2	9.0	11.5

【主なその他回答】

内容	類似回答数
体力、気力がない	4
活動場所に行くための交通機関がない	2
大半仕事をしている	2
余裕が出来れば将来的には参加したい	2
家族の協力	1
休みを続けてもらえないのでさまたげになる	1
今まで参加していない	1
仕事と家庭内のことで手一杯	1
主人の食事の件で留守ができない	1
地域でのイベントがない	1
地域の予算が少ないので活発にならない	1
日時がバッティングする場合	1